

臨床柔道整復学 I		講義	教授 川崎 一郎	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12361101	

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師として、頭部・体幹部の損傷に対する理解は臨床的意味でも非常に重要である。この臨床柔道整復学 I では、頭部・体幹部の骨折・脱臼・軟部組織損傷に関して、各部位の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。加えて、成長期の側弯症・腰椎分離症、脳震盪についても学ぶことにより、より医療現場・スポーツ現場に対して応用可能な知識も身につける。本講義では各部位の臨床と機能解剖を結びつけて理解することにより、各外傷・障害の発生機序、症状および整復方法を体系的に理解するとともに、臨床現場への応用につながる知識を身につけていくことを目指す。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて DVD などのメディアを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス	9. 頸椎の骨折・脱臼
2. 胸郭・脊柱の解剖、構造	10. 胸椎・腰椎の骨折・脱臼
3. 肋骨骨折	11. 軟部組織損傷（頸部）
4. 胸骨骨折	12. 軟部組織損傷（胸部・腰部）
5. 顎関節脱臼	13. 頸椎椎間板ヘルニア、腰椎椎間板ヘルニア
6. 顎関節症	14. 側弯症、腰椎分離症、脊柱管狭窄症
7. 頭蓋骨骨折	15. 脳震盪
8. 顔面部の骨折	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておく（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

各項目の要点をまとめて記述できるようになる。また、本講義で得た知識を通じて実技を実践できるようにする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（15%）小テスト（15%）定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂7版社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。